

## 第1回佐賀市健康づくり計画策定委員会の会議結果について

令和6年7月19日に開催しました会議の概要は下記のとおりです。

### 記

#### ◆ 開催日時

令和6年7月19日（金）19時00分 ～ 20時00分

#### ◆ 開催場所

佐賀市役所本庁舎4階 大会議室

#### ◆ 出席者

##### ◎出席委員（敬称略、五十音順）

井原竹始、北島正弘、木村泰代、酒井皓司、坂本龍彦、鶴田雅子、野本幹子、  
原田洋子、松尾宗明、吉原正博

##### ◎事務局

森保健福祉部長、馬郡健康づくり課長、諸永保健予防一係長、梶原健康推進係長、  
萩原母子保健係長、野田健康企画係長、副島保健予防二係長、斉藤予防接種係長、  
末次主幹、塚原主査、荒巻主査、庄野主査、百崎主事

#### ◆ 傍聴者

なし

#### ◆ 議事要旨

(1) 開会

(2) 委嘱状交付

(3) 保健福祉部長あいさつ

(4) 委員長・副委員長の選出

委員長：坂本龍彦 副委員長：吉原正博

(5) 議事

①第3次佐賀市健康づくり計画について【資料1】

《事務局説明》

《質疑応答》意見はなかったため、議事②へ

②第2次佐賀市健康づくり計画の最終評価について【資料2】

《事務局説明》

《質疑応答》

○委員

7ページのがんの取組について、佐賀県は前立腺がんが人口に対して非常に多いため、特定健診にP S A検査を入れて欲しい。

また、子宮頸がん対策として、H P Vワクチンを産婦人科の先生が中心になって取り組まれていることから、佐賀市としても啓発・推進をしていただきたい。

18ページの栄養・食生活の肥満について、長年校医として就学時健診を実施していて、子どもの肥満のケースでは、親子で肥満になりやすい生活を送っている傾向があり、指導が必要だと思う。

保護者が子どもの指導をできていない現状もあるため、保護者への指導も必要と思う。

○事務局

前立腺がん検診については、国保の50歳以上の対象者のうち、希望者に実施をしているものの、実施方法については、県内の状況等を見て検討していきたい。

子宮頸がんのワクチンについては、引き続き接種勧奨を行い、接種率の向上に努めたい。

○委員

肥満は、学校も含め、子どもと親を一緒に教育する機会があるといいと思うが、親子と接する機会やアプローチをどのようにやるかというところは課題だと思う。

○事務局

乳幼児健診等で、親子一緒に集まる機会があるため、肥満に関する周知・啓発等を行っていきたい。

また、4～5か月と1歳～1歳5か月の期間に、セミナーを実施しており、保護者に対する教育の機会を設けている。

○委員

23ページの歯・口腔の健康について、現状、妊婦の歯科健診は成人の歯周病検診に取り込まれた形で行っているが、妊婦への保健指導には時間がかかることもあり、妊婦の歯科健診と成人の歯周病検診は分けて実施していただきたい。

また、子どもの歯の健康の取組として、保育園・幼稚園・小・中学校でのフッ化物洗口が挙げられているが、ほとんどの中学校は実施していない。他市

では全中学校でフッ化物洗口を行っているため、佐賀市でもぜひ取り組んでいただきたい。

また、若い世代（20代～30代の働き盛りの世代）の健診として、歯周病検診だけでなく、企業健診等の啓発の機会を増やす取組をしていただきたい。

○事務局

教育委員会も含めて検討したい。

○委員

HPVワクチンについて、予防接種教育はすごく大事なので、学校教育の中にできれば取り入れていただきたい。

小学校6年生、中学生の接種率をいかに増やすかが大事で、保護者に訴えられるのは、学校からの配布物が一番有効だと思っている。ぜひ、教育委員会・学校側からの接種勧奨の働きかけを積極的をお願いしたい。

また、こころの健康について、若年者の自殺は多く、子ども、青年期の自殺をいかに減らすかということが大事なので、SOS教育などの教育的な介入が必要だと思う。

子どもの睡眠については、ゲームやインターネットの環境が影響しており、子どもだけ指導しても改善しないため、保護者も一緒に指導をするような教育・啓発も必要だと感じている。

○委員

9ページの脳血管疾患による死亡者の減少についての評価がわかりにくい。指標の標準化死亡比は全国を100とした数字であるため、佐賀市が減少していても全国がより減少していると死亡率が上がっているように見えてしまう。また、これの改善率を出すことで、更にややこしくなっている。

ここの見せ方は、誤解のないようにご検討いただきたい。

(6) 閉会